

はじめに

本事業では、農業および農業をめぐるサイエンス（農学）に関する大学の知を地域社会に還元し、未来の食と環境を考える機会を共有することを目的としている。未就学児・小学生からシニア世代までの幅広い年齢層を対象に、研究科附属フィールド科学教育研究センター東郷フィールドでの実体験から最先端の昆虫科学・植物科学に関する講演会まで、多角的なアプローチからなる以下の事業を展開した。

1. 農場講演会

1-1. 第1回（開催日：令和7年7月31日、場所：東郷町大会議室）

東郷町産業振興課との協力のもと、生命農学研究科害虫制御学研究室助教三高雄希博士による講演会「シロアリが築く朽木の中の王国：化学物質を介した情報伝達を基盤とした社会」を開催した。東郷町の「農業の未来会議（東郷農学校）」のメンバーの他に、東郷町の広報を通じて一般にも広く周知した。また、研究科のホームページにも案内を掲載した。東郷農学校から3名、一般から5名、本学関係者9名、その他東郷町の関係者を含め合計18名が参加した。講演会では、三高博士より普段は土台や柱を食害する住宅の害虫として忌み嫌われるシロアリの、自然環境における分解者としての意義を分かりやすく解説いただくとともに、シロアリの高度な社会性を支える化学物質を介したコミュニケーションに関する最新の研究成果について紹介いただいた。

■ 名大農場講演会 シロアリが築く朽木の中の王国 ～化学物質を介した情報伝達を基盤とした社会～

産業振興課 / ☎0561-56-0740

時 7月31日(木) 午後2時～4時 場 町民会館 大会議室

内 朽木の中で驚くほど高度な社会を築いているシロアリの知られざる社会構造や情報伝達の仕組みをわかりやすく話します。

講 名古屋大学大学院生命農学研究科 三高雄希助教

定 50人 ￥無料

問 名古屋大学東郷フィールド事務室 ☎0561-37-0200



1-2. 第2回（開催日：令和7年10月25日、場所：研究科附属フィールド科学教育研究センター東郷フィールド）

東郷町および名古屋大学教育学部附属中・高等学校との連携のもと、名古屋大学大学院生命農学研究科助教の縣歩美博士による講演会「イネの穂のかたちはどう決まる？ ～お米の実りを左右する遺伝子のひみつ～」を開催した。東郷町の広報、附属学校での案内、生命農学研究科のホームページを通じて案内を行った。附属中・高等学校の生徒・教員24名、東郷高校の生徒・教員11名、東郷農学校のメンバー他一般聴講者5名が参加した。講演後は附属学校の生徒から活発な質問があった。また、女性研究者の大学生活や海外での研究活動についても紹介があり、女子生徒にとって参考となる具体的な事例を知る機会となった。

講演会のあとは東郷フィールドの紹介を行い、つづいて東郷フィールド教員による施設見学会を行った。果樹園、野菜畑の管理について紹介するとともに、東郷フィールドで長年実施している有機質肥料連用試験圃場を見学した。また、イネの遺伝育種やUAV（ドローン）による圃場画像情報の取得と解析、大型家畜動物の生殖科学に関する各教員の研究内容を実物に触れながら紹介した。



2. 農業ふれあい教室（開催日：令和7年10月25日、場所：研究科附属フィールド科学教育研究センター東郷フィールド）

小学生とその家族を対象に東郷町、三好市の広報、研究科のホームページにて募集を行い、14家族、合計38名の参加を得て、農業ふれあい教室を開催した。

はじめに田原保樹技術職員から、準備期間に撮影した写真や資料をもとに、さつまいもと落花生の栽培と成長の過程についての解説があった。その後栽培圃場へ移動し、実際の作物を前にその特徴を解説した。収穫方法についての説明と留意事項の周知の後、各自で収穫を行った。東郷フィールドの教員および大学院生が安全確保と収穫補助に従事した。参加小学生それぞれが収穫した最も大きなさつまいもを持ち寄りその重量を計測し、上位3名を表彰した。

収穫体験の後は東郷フィールド内を見学し、動物生産科学部門の教員の解説のもと、黒毛和牛、シバヤギの観察を行った。



